

サーバサイドで高品質な組版と ページ処理を実現する

2007年9月7日



配布資料との相違点

● 訂正

- 15ページのスライド上下順序が逆
- 8ページ下

- Keep: 対象オブジェクトを指定文脈(稗、段落、ページ)内に保持するKeep

● 本日のお話

- 配布スライドより一部削除
- 挿入
- 順序入れ替え

挿入

自己紹介

- アンテナハウス株式会社
 - <http://www.antenna.co.jp>
 - 1984年設立
 - 従業員数35名（本社東京、伊那支店）
- 北京HYF Software Co, Ltd.
 - 独資会社として設立、1997年営業開始
 - 従業員数30名
- Antenna House, Inc. (USA, Maryland州)
 - <http://www.antennahouse.com>
 - 2003年4月設立
 - 従業員数5名（販売会社）

目標：世界標準のツールを開発し、世界市場で販売する

アウトライン

1. 組版とは、その重要性
2. XSL-FOとは？
3. 帳票ソフト、DTP、TeXとの相違
4. サーバサイド組版のための自動最適化機能
5. XSL Formatter V4.2のご紹介
6. XSL FormatterのPDF出力
7. 応用分野、ケーススタディのご紹介
8. XSL-FOとCSS
9. 次世代への展望

組版ってなに？

- 組版

- 文字や図版などの要素を配置し、紙面を構成すること。印刷の活字を結束糸で縛ったものを「組み版」と表現したことから由来する。

(『ウィキペディア (Wikipedia)』)

- 活版時代の印刷技術に由来する用語

- Webブラウザは、プリントの品質が低い。
- Webシステムも頁印刷品質をもっと高めるべき。
- 品質の良いページの出力のために、Webベースのシステムにも組版技術を取り込む必要がある。

高品質な組版とは

- 日本語文書の組版規則 (JIS X4051)、編集者向けガイドブックなどで様々な規則が規定されている
 - 行組版規則 (文字の配置、約物、行頭禁則、行末禁則、分離禁止、連数字、和欧文混植、字形処理、ルビ、添え字、圏点、下線、割注、段落整形、文字の揃えなど)
 - 用紙サイズ、綴じ方向、行の配置、ノンブル、柱
 - 改ページ、改段処理、見出し、注、合印、脚注、図・写真のブロック配置、表の処理
 - 行送り方向の規則
- 高品質組版には日本語組版規則をソフトウェアに実装していくことが必要

XSL-FOとは

- XMLを組版するために開発された標準レイアウト指定言語
- 専門家の作業委員会で長期に渡る検討の結果標準化された仕様
- マークアップ・データ用レイアウト指定言語の発展の延長にあり、SGML時代のDSSSL、FOSIを継承する。20年以上の歴史をもつ
 - 2001年10月 XSL V1.0
 - 2006年12月 XSL V1.1

XSL-FO組版プロセス

